

| | |
|-------|--|
| コース | D コース |
| プログラム | ニューヨーク州立大学ストニーブルック校 Global Academic Program |
| 渡航国 | アメリカ合衆国 |
| 渡航期間 | 3 週間 |
| 所属学部 | 国際商学部 |

学部授業①：Introduction to American Government

授業時間：41 時間（全 12 回 × 3 時間 25 分）

内容・内省：

アメリカ政治学の基礎を学んだ。はじめは、アメリカの政治の基盤となつた歴史的な出来事や、過去の政治体制の遷移を体系的に学習した。合衆国憲法修正条項やその成り立ちを知ることは、現代のアメリカ人や社会の価値観への理解に繋がった。次に、現代の政治体制について学んだ。連邦府が立法府、行政府、司法府の三機関で構成されていることは知っていたが、その詳細や関係性をさまざまな歴史的背景や理由から始めて学ぶことができた。そして、現代の選挙や政治思想に関して学習した。SNS が投票結果にもたらす影響や、地域によって顕著な政治思想があることについて知った。授業は、講義形式で行われたが、カジュアルなディスカッションが絶えず行われた。自分の政治に対する意識の低さを痛感することもあったが、どんな意見も否定することのない授業環境であったので、積極的に意見交換を行うことができた。クラスメイトは、6 つの国と地域の出身者が集まり、社会人経験者や退役軍人など多様な背景をもつ人と関わりながら、アメリカ政治を学ぶことができた。また、課題はフォーラム上のディスカッション、成績は全 4 回の試験と課題を基に評価された。

学部授業②：Introduction to Sociology

授業時間：41 時間（全 12 回 × 3 時間 25 分）

内容・内省：

社会学を専攻するにあたっての基礎的な知識や現代社会の現状について学んだ。社会学における仮説や研究方法について学んだ後、Socialization、

Groups and Organizations、Crime and Deviance、Society、Culture、Stratification、Social Change、Race、Gender、Sex、Sexuality、Economics、Power and Politics、Environment という代表的なカテゴリーごとに、現代社会を社会学的に見た。ディスカッションがメインの授業であり、クラスの半分がニューヨーク州出身だったため、ニューヨーク州の現代の学生の価値観を多く知ることができた。アメリカ人はどんな話題でも恐れず発言をするという先入観を持っていたが、人種や性などのセンシティブなテーマでは、発言をする人が少なく、同じ世代の学生として強く共感した。また、上記テーマのうち、人種や文化、社会について関心をもち、最終課題の論文では、大坂なおみ選手のジレンマについて書き上げることができ、自分の価値観に気づく大きなきっかけとなった授業であった。また、課題は毎回の授業に関する読み物 4 つを整理する事前課題と、毎回の授業の要約やグループで課題論文をまとめる授業内課題があった。成績は、計画書や下書きを含む最終論文課題と上記課題を基に評価された。